ロマンス語語彙におけるゲルマン語の通時的影響

― 10世紀までのロマンス語語彙と古英語 ―

上　野　貴　史

【キーワード】ロマンス語、ゲルマン祖語、ゴート語、古フランク語、
ランゴバルド語、古ノルド語、古英語、語彙論

１．はじめに

西ヨーロッパとアフリカの一部という広大な地域を支配していたローマ帝国は、395年に東西に分裂した後、５世紀からゲルマン民族の侵入を被り[1)]、476年に西ローマ帝国は崩壊する。言語的には、ローマ帝国の様々な地域で話されていた口語ラテン語である俗ラテン語（Vulgar Latin: V.Lat.）は、ゲルマン語との接触を受けながら、各ロマンス語に分化していく[2)]。しかし、このような他言語族からの影響は、西ローマ帝国崩壊から始まったわけではなく、元々小さな農民の集落に過ぎなかったラテン民族が話していたラテン語（Lat.）では、帝国の発展と共に、多くの他国の語彙を吸収しながら発達してきたことも事実である。本稿では、ある意味、言語的に吸収力のあるラテン語（ロマンス語）が、各ロマンス語に分化していく過程において、その地を支配するゲルマン系民族の言語によってどの様に影響が与えられたかを語彙面に関して明らかにすることを目的としている。特に、10世紀頃までの間に、基層であるロマンス語にどの程度ゲルマン語との言語接触があり、それが現代語としてどのように残存しているかを考察する。

現在、ロマンス語とされるものには、国家単位として、フランス語（F）・スペイン語（S）・ポルトガル語（P）・イタリア語（I）・ルーマニア語（R）がある。これらのロマンス語は、各ロマンス語で多くの共通する点が見られるが、系統的には、イタリアにおけるラ・スペツィア＝リミニ線（Linea La Spezia-Rimini）で示される北西と南東部分で二分し、北西に当たる北イタリア諸方言・フランス・スペイン・ポルトガルを西ロマンス語[3)]、南東に当たる中南イタリア諸方言・ルーマニアを東ロマンス語と大きく分けることが可能である[4)5)6)]。この西ロマンス語に属するフランス語語彙が、1066年のノルマン・コンクエスト（The Norman Conquest of England）を期に、古英語の中に大量に流入していくわけであるが、この流入したフランス語には元々ゲルマン語起源とする語彙も含まれていることになる。この英語の中へのゲルマン語の流入に関しても、どの様な語が現代語で残存しているかについて触れていくことにする。

なお、分析データとしては、各ロマンス語史における先行研究においてゲルマン語からの借用とされている語彙を取り上げ、その cognate（同根語）を調査するという手法をとることにする。

2．ロマンス語における他国語の影響

10世紀までに各国を支配していた民族に関して、簡略にまとめたものが＜表１＞となる。

＜表１：10世紀までのロマンス語圏＞

ポルトガル	スペイン	フランス	イタリア	ルーマニア
アクィタニア（バスク）・イベリア・タルシア		アクィタニア（バスク）・イベリア・リグリア	ラテン・エトルリア・ギリシア	ゲダイ・ダキア
BC7C：ケルト人		BC7C：ケルト人（ガリア）	BC753：ローマ建国	
BC197：ローマイベリア半島征服		BC58-50：ローマガリア征服		
			1C：ゲルマン語の影響	
				106-124：ローマダキア征服
				271-4C：ゴート人
395：ローマ帝国東西分裂				
476：西ローマ帝国滅亡				
409-711：西ゴート王国（ゲルマン族）				5C：ゲピド人（ゴート族）
589：西ゴート人キリスト教に改宗		481-886：フランク王国（ゲルマン族）	497-553：東ゴート王国（ゲルマン族）	6C-8C：アヴァール人
		5C：アラマン族（東部）	553-568：東ローマ帝国（ギリシア語）	
711-1031：アラブ人		（ゲルマン族）	568-774：ランゴバルド王国（ゲルマン族）	
			774-886：フランク王国（北部）	
			（ゲルマン族）	
		9C：スカンジナビア民族	827-1091：アラブ（シチリア）	-1000：ブルガール人
		（古ノルド語）		（テュルク系）

イベリア半島にあるポルトガルとスペインにおいては、紀元前７世紀頃からケルト語を使用する民族が定住し、紀元前197年にローマがイベリア半島を征服してからラテン語化することになる。紀元後３世紀末頃からゲルマン民族の侵入を受け、409年には西ゴート王国となり、この間ゲルマン語と言語接触をすることになるが、589年に王国がキリスト教に改宗することにより、ゲルマン語の影響は弱まることになる。それ以上に、イベリア半島は、その後のアラブ人の支配

により、アラビア語の影響を強く受けることになるが、アラブ人による支配の後の13世紀になって、プロヴァンス語・フランス語・ラテン語から語彙を借用したため、再びロマンス語化されることになる。このため、10世紀までのポルトガル語とスペイン語のゲルマン語の影響は、ゴート語だけから直接受けることになる。

フランスのガリア地域においては、紀元前７世紀頃は、ケルト語（ガリア語）を使用していたが、紀元前58年から50年にかけてのローマによるガリア征服からラテン語化が始まることになる。西ローマ帝国が滅亡した後は、ゲルマン系のフランク王国（481-886）による古フランク語の影響を強く受ける。その後、９世紀になってスカンジナビア民族がノルマンディーに侵入し、やはりゲルマン系の古ノルド語と言語接触をする。

次に、元々印欧語を使用していたとされるダキア地域のルーマニアは、ローマによって106-124年に征服されるが、その支配は約200年程度しかなく、その後は、ゲルマン系のゴート族に支配されることになる。これ以降、ルーマニアは、ロマンス語との接触はほとんどなく、テュルク系のブルガール人やスラブ系の影響を受け続けるため、直接ゲルマン語を借用しているものは見つからない。18世紀に入ってようやく、ラテン語、イタリア語を利用した造語やフランス語からの借用により、ロマンス語の語彙が使用されるようになり、これらにゲルマン語を祖語とする語彙が見られることになる。

最後に、イタリアは、ローマ建国以来、周辺の言語を吸収しながら、大帝国へと発展していく。すでに、紀元後１世紀頃にはゲルマン語の影響も受けていたが、ゲルマン語の強い影響をうけるのはやはり西ローマ帝国崩壊後となる。まず、497年には東ゴート王国というゲルマン民族の支配を受け、その後少しの期間、東ローマ帝国に支配されるが、それ以降は、ランゴバルド王国（568-774）、フランク王国（774-886）と連続してゲルマン系民族に支配されることになる。

以上、10世紀までにロマンス語が直接影響を受けたゲルマン語についてまとめたものが（1）となる。

（1）ゴート語（Got.）：ポルトガル・スペイン・フランス・イタリア・（ルーマニア）
　　古フランク語（O.Fra.）：フランス・スペイン
　　ランゴバルド語（Lan.）：イタリア
　　古ノルド語（O.Nor.）：フランス

言語系統的には、ゲルマン語は、東、北、西の三つの語群に分類することが可能となる。（1）で示したゲルマン語の内、ゴート語とランゴバルド語[7)]は、東ゲルマン語群に属し、現在ではいずれも死語となっている。フランク王国で使用されていたとされる古フランク語は、現代のオランダ語の祖先となる言語であり、西ゲルマン語群に属する。また、フランスにおいて９世紀頃に影響を与えた古ノルド語は北ゲルマン語に属する。このことから、ロマンス語は、ゲルマン語における東、西、北のすべての語群の影響を多寡はあるが受けているということになる。

（2）ゲルマン祖語（PG）
- 東ゲルマン語群：ゴート語（東ゴート王国・西ゴート王国）、ランゴバルド語（ランゴバルド王国）
- 西ゲルマン語群：古フランク語（フランク王国）
- 北ゲルマン語群：古ノルド語

3．ゲルマン語起源

ここでは、ゴート語、古フランク語、ランゴバルド語、古ノルド語という言語別に、語源が明らかなものから同根語のセットを考察していく。

3.1．ゴート語起源

ゴート語に関しては、イベリア半島が西ゴート、そしてフランス・イタリアが東ゴートの影響を直接受けることになる。その語彙がゴート語の影響であるかどうかは、ゴート語で４世紀に書かれたとされる聖書の翻訳などから比較言語学の手法で判断されるのが一般的であるが、現在まで残っている同根語を分析することにより、①ロマンス語全体にゴート語からの影響があるもの、②東ゴートからの影響だと考えられるもの、③西ゴートからの影響だと考えられるもの、の三つに分類することが可能であると考えられる。

3.1.1　東西ゴート語から

東西ゴート語からの借用であると考えられるものの中で、すべてのロマンス語に同根語が見られるものとしては、（3）のようなものがある。

（3）spehōnǫ (PG) > *spaiha/*spaihōn (Got.)/(*spehōn (O.Fra.)) >
espia (P); espía (S); espion (F); spia (I); spión (R)「スパイ」

（3）はすべてゴート語起源とされる説がある一方で、Wartburg（1944）は、フランス語 espion が古フランス語 espie を通した古フランク語起源の語彙であるという指摘を行っている。この場合、イタリア語の spia も古フランク語起源となるが、時期的にもゴート語と古フランク語は重なることもあり、どちらを起源とするか判断が付かないものが多く見られる。

（4）は、ルーマニア語にだけ同根語が欠落しているゴート語起源の例である。

(4) *bramjanǫ (PG) > bramjan/brammōn (Got.) >
bramar (P); bramar (S); bramer (F); bramire (I)「吠える」

（5）は、現代フランス語において同根語が消失している例である。

(5) *þreskanǫ (PG) > þriskan (Got.)「脱穀する」> triscar (P)「音を立てる」;
triscar (S)「足を踏みならす」; (treschier (OF)); trescare (I)「陰謀を巡らす」

フランス語は、古フランス語における treschier が現代フランス語で消失し、（6）の trépigner「足

を踏みならす」という異なるゲルマン語起源の語彙が現在使用されている。

(6) *trippōn > treper (OF) > trépigner (F)「足を踏みならす」

さらに、(5) は、ゴート語における þriskan「脱穀する」という意味がポルトガル語・スペイン語では「足を踏みならして音を立てる」という意味で使用されているが、イタリア語 trescare においては、「激しく動く」という意味は古風な意味となっており、現代イタリア語では「陰謀を巡らす」というように意味が転意している。

3.1.2　東ゴート語から

次に、東ゴート語から借用されたと考えられるすべての同根語がそろっているものとして、(7) のようなものを挙げることができる。

(7) *bandwjan (Got.) > bandido (P); bandido (S); bandit (F); bandito (I); bandít (R)「盗賊」

(7) を東ゴート語からの借用と考えるのは、ポルトガル語・スペイン語・フランス語がいずれも東ゴート語の影響を受けたイタリア語からの借用であるためである。ポルトガル語・スペイン語の bandido は、イタリア語から借用する際、西ロマンス語の特徴である母音間の無声破裂音 [t] が有声化して [d] となっている。

(8) は、ルーマニア語における同根語が欠落している例である。

(8) *rukkô (PG) > (*rokko (O.Fra.))[8] > rukka (Got.) >
rocha (P); rueca (S); rochet (F); rocca (I)「糸巻き棒」

(8) もポルトガル語 rocha がフランス語からの借用であるため、東ゴート語からの借用と位置づけることが可能であると考えられる。この同根語においても、東ロマンス語の二重子音（ro***cc***a (I)）と、西ロマンス語の単音化（ro***ch***a (P), rue***c***a (S), ro***ch***et (F)）という特徴が見られる。

東ゴート語からの借用は、主にイタリア語で多くみられ、イタリア語だけに借用語が残っている語彙には (9) のようなものがある[9]。

(9) bega「つまらない喧嘩」, corredare「配備する」, corredo「装備」, forra[10]「峡谷」, melma「泥」, schietto[11]「純粋の」, sghembo[10]「斜めの」, smaltire[10]「消化する」, stanga「かんぬき」

3.1.3　西ゴート語から

西ゴート語を起源とするもの中で、すべてのロマンス語に同根語を持つものとしては、(10) のような例がある。

(10) kastan/kasts (Got.) > casta (P); casta (S); caste (F); casta (I); cásta (R)「血統」

(10) は、フランス語 caste とイタリア語 casta が、ポルトガル語 casta からの借用ということから、西ゴート語を起源とする語彙と考えることが可能である。西ゴート語を起源とするものは、(11) のようなポルトガル語とスペイン語だけに同根語を持ち、東ゴート語に対応する同根語がないも

のが典型的なものとなる。

(11) *broz (PG) > *brut (Got.) > broto (P); brote (S)「芽」

このように、ポルトガル語とスペイン語だけに同根語が存在するものには（12）のようなものがある[12)]。

(12) agasalhar (P)/agasajar (S)「もてなす」, amainar[13)] (P/S)「弱まる」, ataviar (P/S)「着飾らせる」, brotar[14)] (P/S)「芽吹く」, esquilar[15)] (P/S)「刈り込む」, fato (P)/hato (S)[16)]「背広」, ganso (P/S)「ガチョウ」, garbo (P/S)「優美」, gaviao (P)/gavilán (S)「ハイタカ」, parra (P/S)「ブドウのツル」, sacar「引き出す」

3.2.　古フランク語起源

古フランク語は、５世紀後半からフランス、そして８世紀にはイタリアを領土とするフランク王国を通してロマンス語に影響を与えている。この古フランク語は、直接書かれた資料は残っておらず、古フランス語などから再建されたものである。すべてのロマンス語に同根語を持つ語彙としては（13）がある。

(13) a. *bannanǫ (PG) > *ban(n) (O.Fra.) > abandoner (OF) >
abandonar (P); abandonar (S); abandonner (F); abbandonare (I); abandoná (R)「見捨てる」
b. *dansōn (PG) > dancer/dancier (OF) >
dançar (P); danzar (S); danser (F); danzare (I); dansá (R)「踊る」

(13) は、abandonner と dancer/dancier という語彙が古フランス語の時代から存在し、それが各ロマンス語に拡散したものと考えられる。今回調査した古フランク語起源と思われる同根語の中で、フランス語の同根語がないものは（14）で示した5例のみという結果となっている。

(14) a) *maganǫ (PG) > *magan/*mugan (O.Fra.) > esmaier (OF) >
desmaiar (P); desmayar (S); dismagare (I)「無力にさせる」
b) *ripil (O.Fra.) > rifler (OF) > rebbio (I)「フォーク状の先端」
c) *skara (O.Fra.) > esqueira (OF) > schiera (I)「隊列」
d) *sinþanǫ (PG) > *sinn (O.Fra.) > sen/san (OF) > sien (P); senno (I)「思慮分別」
e) *marzijanǫ (PG) > *marrijan (O.Fra.) > esmarrir (OF) > smarrire (I)「紛失する」
f) *taska (O.Fra.) > tasca (I); tásca (R)「ポケット」

(14a-e) は、古フランス語（a: esmaier, b: rifler, c: esqueira, d: sen/san e: esmarrir）には存在したが、現代フランス語でその同根語を消失してしまったものである。一方、(14f) は、古フランス語での同根語が存在しないことから、イタリア語において古フランク語が借用されたものと考えられる[17)]。

このように、古フランク語はフランス語に強い影響を与えているため、各ロマンス語に拡散せ

ず、（15）のように、現代フランス語にだけ残っているものが多く見られる。

（15）bâtir「建てる」, baudet「ロバ」, blaireau「穴熊」, blé「小麦」, blesser「傷つける」, choisir「選ぶ」, crapaud「ヒキガエル」, déchirer「引き裂く」, flétrir「しおれさせる」, froc「ズボン吊り」, gage「担当」, gravir「よじ登る」, grêle「ひょう」, guêpe「スズメバチ」, guère「ほとんど～ない」, gui「ヤドリギ」, haie「垣根」, haïr「憎む」, hameau「小さな集落」, hanneton「コガネムシ」, hâte「急ぐこと」, hêtre「ブナの木」, housse「覆い」, houx「セイヨウヒイラギ」, jongler「曲芸をする」, laie「雌猪」, louche「お玉」, mésange「四十雀」, poche「ポケット」, rêche「ざらざらした」, roseau「葦」, sale「汚い」, saule「柳」, souhaiter「望む」, trébucher「つまずく」, troène「イボタノキ」

3.3．ランゴバルド語起源

６世紀にイタリア半島にあったランゴバルド王国は、イタリアに強い影響と特徴を与えている。ランゴバルド語についても、文書としては残っておらず、中世ラテン語のテキストなどから断片的に語彙が再建される。ロマンス語のすべてに同根語を持つものには（16）のような例がある。

（16）*stukkij*ą* (PG) > *stucchi (Lan.) > estuque (P); estuco (S); stuc (F); stucco (I); stuc (R)「漆喰」

（16）のポルトガル語、スペイン語、フランス語の同根語は、いずれもイタリア語 stucco からの借用となっている。今回調査したランゴバルド語起源の多くが、（17）で示すようなイタリア語だけにしか見られないものとなってる。

（17）baruffa「喧嘩」, biacca「鉛白」, bica「小麦の穂の山」, federa「枕カバー」, gramo「哀れな」, greppia[18]「馬草棚」, grinfia「爪」, gruccia「松葉杖」, gualcire「しわにする」, guancia[19]「頬」, imbastire「仮縫いをする」, manigoldo「悪党」, milza「脾臓」, nappa「房飾り」, nocca「指関節」, ranno「灰汁」, predella「教壇」, russare「いびきをかく」, sberleffo「しかめ面」, scaffale「棚」, scherzare「ふざける」, scherzo「冗談」, sciancato「足が不自由な」, sguattero「皿洗い」, smacco「惨敗」, spaccare「亀裂を入れる」, spalto「斜堤」, spranga「かんぬき」, spruzzare「ふりかける」, stamberga「あばら屋」, sterzo「ハンドル」, stinco「すね」, stormo「群れ」, stracco「疲れた」, strofinare「磨く」, tanfo「悪臭」, tonfo「失敗」, tuffare「浸す」, zaino「リュックサック」, zanna「牙」, zazzera「もじゃもじゃ頭」, zecca「ダニ」

3.4．古ノルド語起源

古ノルド語は、９世紀にフランスに影響を及ぼしたゲルマン語であるが、ロマンス語すべてに同根語を持つものとしては、（18）のようなものがある。

（18）*skipōn*ą* (PG) > *skipa (O.Nor.) >

equipar (P); equipar (S); équiper (F); equipaggiare (I); echipá (R)「装備する」

（18）におけるフランス語以外の同根語は、すべてフランス語からの借用となっている。今回調査を行った古ノルド語起源の語彙は、すべて現代フランス語に残存している。この中で、フランス語だけに同根語が残っているものとして（19）のようなものを挙げることができる。

（19）agrès「操帆具」, crique「入り江」, joli「かわいい」, mare「小さな池」, tanguer「縦揺れする」, turbot「イシビラメ」

このような古ノルド語は、ノルマン・コンクエストを期に、古英語に流入していくわけであるが、逆に、同時期に、古英語からロマンス語に借用されたと考えられるものとして（20）のようなものがある。

（20）*austr*ą* (PG) > ēast (OE) > este (P/S); est (F/I/R); east (E)「東」
*nurþr*ą* (PG) > norþ (OE) > norte (P/S); nord (F/I/R); north (E)「北」
*westr*ą* (PG) > west (OE) > oeste (P/S); ouest (F); ovest (I); vest[20] (R); west (E)「西」
sūþ (OE) > sul (P); sur (S); sud (F/I/R); south (E)「南」
*maihwaz/*maiwaz (PG) > mǣw (OE) > mouette (F); mew (E)「カモメ」

3.5．複数の起源を持つ同一同根語

西ローマ帝国崩壊後、ゴート、フランク、ランゴバルドといったゲルマン語の影響を次々と受けることになるロマンス諸語であるが、現代語においてその起源が異なると考えられる同根語のセットとして（21）のような語彙がある。

（21）*rīkijaz (PG) > reikeis (Got.) > rico (P); rica (S)
> *riki (O.Fra.) > riche (F)
> *rihhi (Lon.) > ricco (I)「豊かな」

（21）では、イベリア半島の二言語はゴート語を起源とし、フランス語は古フランク語、そしてイタリア語はランゴバルド語の起源となっており、この時期に最も影響を受けたゲルマン語が各ロマンス語における起源となっている。（21）以外の同根語においてもこれと同じような傾向が見られ、当然ながら、その当時にその地を支配していた言語の影響が残るという結果となっている。

（22）a. *trewwō (PG) > *triggwa (Got.) > trégua (P); tregua (S/I)
> *treuwa (O.Fra.) > trêve (F)「休戦」
b. *harjabergō (PG) > *haribaírgo (Got.) > albergue (P/S); albergo (I)
> *heribergôn (O.Fra) > herberge (OF) > héberge (F)「避難所」

（22）のイタリア語 tregua/albergo は、ランゴバルド語の前にすでにゴート語から借用されているものと考えられ、同時期に古フランク語から借用したフランス語 trêve/héberge とは異なる経緯で借用されていると思われる[21]。

４．ゲルマン語起源のロマンス語と英語

最後に、高頻度で使用されるゲルマン語起源のロマンス語に関して、英語がどの様に対応しているかを検証するために、イタリア語における上位2000番までの高頻度語彙と、これに対応する英語の同根語の一覧を示す（＜表２＞）。

＜表２：イタリア語高頻度語彙と英語の同根語＞

Italian	意味	起源	頻度順位	PG	O.Fra./Got./Lan.	English	意味
guardare	見張る	O.Fra.	105	*wardōnǫ	*warda(n)	ward	防ぐ
troppo	あまりに	O.Fra.	174	*þurpǫ	*thorp	þorp (OE)	村、群れ
guerra	戦争	O.Fra.	207	*werrō	*werra	war < OF	戦争
bisogno	必要・仕事	O.Fra.	219		*bisunnija, *bisun(n)i		
bianco	白い	Lan.	309	*blankaz	*blank		
attaccare	つなぐ	O.Fra	371	*stakkaz, *stakken	*stakka	attack < F	攻撃する
albergo	避難所	Got.	466	*harjabergō	*haribaírgo	harbour	港、寄宿
buttare	投げ捨てる	O.Fra.	486	*bautanǫ	*botan	beat	たたく
fresco	涼しい	O.Fra.	623	*friskaz	*fresk, *frisk	fresh	新鮮な、すがすがしい
sala	部屋	O.Fra.	631	*salǫ	*sal	sæl (OE)	ホール
abbandonare	見捨てる	O.Fra.	655	*bannanǫ	*ban,*bann	ban	禁止する
guardia	警備	O.Fra	774	*wardōnǫ	*warda(n)	ward < F, guard < F	（古）警備
giardino	庭	O.Fra.	826	*gardo	*gardin	garden < OF	庭
scherzare	ふざける	Lan.	849	*skirtanǫ	*skerzon		
biondo	ブロンド	O.Fra.	946	*blundaz	*blund	blond < F	ブロンド
banca	保管所	O.Fra.	1058	*bankiz, *banka	*bank	bank < MF < OI	銀行
garantire	保証する	O.Fra.	1141	*war	*warjan	guarantee < OF	保証する
scherzo	冗談	Lan.	1194	*skirtanǫ	*skerzon	scherzo < I	（音）スケルツォ
grigio	灰色	O.Fra	1208	*grēwaz, *grisa	*gris	grey	灰色
guarire	直る	O.Fra.	1299	*warjanǫ	*warjan	wear	（方）守る
fornire	支給する	O.Fra.	1313	*frumjanǫ	*furmjan, *frunjan	furnish < OF	供給する
spia	スパイ	Got.	1419	*spehōnǫ	*sphaiha	spy < OF	スパイ
palla	弾丸	Lan.	1456	*ballô, *balluz	*palla, *balla	ball	玉
stoffa	布地	O.Fra.	1460	*stuppōnǫ	*stopfon	stuff < OF	織物
bruno	ブラウン	O.Fra.	1623	*brūnaz	*brun	brown	ブラウン
blu	青い	O.Fra	1626	*blēwaz	*blewu	blue	青い
truppa	部隊	O.Fra.	1654	*þurpǫ	*throp	troop < F	部隊
schiena	背中	Got.	1658	*skinō	skëna	shin	向こうずね
parco	公園	O.Fra.	1727	*parrukaz	*parrik	park < OF	公園
schifo	小型ボート	Lan.	1946	*skipǫ	*skif	ship	船
foresta	森林	O.Fra.	1969	*furhō, *furahō	*forhist	forest < OF	森林

＜表２＞は左から「イタリア語」、その「意味」、「ゲルマン語の起源」、「頻度順位[22]」、「ゲルマン祖語形態」、「各ゲルマン語形態」、そしてそれに対応する「英語」とその「意味」を記している。例えば、最も頻度順位の高いイタリア語 guardare「見張る」は、古フランク語を起源とし、頻度辞典では105位であり、ゲルマン祖語で *wardōnǫ、古フランク語で *warda(n) と再建され、これに対応する英語の同根語が ward「防ぐ」であるということを示している。上位2000番までのイタリア語は31語見られ、古フランク語起源が23例、ランゴバルド語起源が5例、ゴート語起源が3例、となっており、古フランク語起源が多いながらも、イタリア語と言語接触をしたゲルマン語がそれぞれ高頻度語彙に入っていることになる[23]。

西ゲルマン語群に属する英語は、これらのイタリア語31語に対する同根語を28語持っていることになる[24]。この中で、1066年のノルマン・コンクエスト以降に古英語に流入したと考えられる語彙は、（古）フランス語からの借用となっているものであり、28語中13語とほぼ半数を占めている。これ以外の語彙は、古英語において元々存在していたものと考えられ、中期英語（ME）を含めた形態変化を示したものが（23）となる。

（23）a. *wardōnǫ/*wardānǫ (PG) > weardian (OE) > warden (ME) > ward「防ぐ」
b. *þurpǫ (PG) > þorp[25] (OE)「村」
c. *harjabergō (PG) > herebeorg (OE) > herber/herberge (ME) > harbour「港、寄宿」
d. *bautanǫ (PG) > bēatan (OE) > beten (ME) > beat「たたく」
e. *friskaz (PG) > fersc (OE) > fresch/fersch (ME) > fresh「新鮮な」
f. *salǫ (PG) > sæl (OE)「ホール」
g. *bannanǫ (PG) > bannan (OE) > bannen (ME) > ban[26]「禁止する」
h. *grēwaz (PG) > grǣġ (OE) > grey「灰色」
i. *warjanǫ (PG) > *werian (OE) > weren/werien (ME) > wear[27]「守る」
j. *balluz/*ballô (PG) > *beall/*bealla[28] (OE) > bal/ball/balle (ME) > ball「玉」
k. *brūnaz (PG) > brūn (OE) > broun (ME) > brown「ブラウン」
l. *blēwaz (PG) > *blǣw[29] (OE) > blewe (ME) > blue「青い」
m. *skinō (PG) > scinu (OE) > shine (ME) > shin「向こうずね」
n. *skipǫ (PG) > scip (OE) > ship/schip (ME) > ship「船」

このように、古英語から現代英語に残存している語彙の中には、grey/brown/blue といった色彩語がある。このような色彩語は、古英語の形態を保持する傾向があり、「白い」を意味するランゴバルド語起源のイタリア語 bianco が借用されることはなく、（24）で示すように古英語の形態を保持している。

（24）*hwītaz (PG) > hwīt (OE) > whit/hwit (ME) > white

英語における色彩語に関するこのような保守的な傾向は、ロマンス語において多くの色彩語をゲ

ルマン語から借用したということと反対の方向性を示すことは興味深い。しかしながら、調査を行った約半数の語彙が現代英語でも使用されているということは、（古）フランス語を通したゲルマン語起源の影響の強さをよく示していると考えられる。

５．結語

以上、本稿では、10世紀までのロマンス語におけるゲルマン語の影響と、ゲルマン語起源のロマンス語から古英語への流入に関しての考察を行った。この考察により、次のことが指摘できると思われる。

・東ゲルマン語であるゴート語起源の語彙は、①東西ゴート語、②東ゴート語（主にフランス語・イタリア語）③西ゴート語（主にポルトガル語・スペイン語）からの影響を受けているものがある。
・西ゲルマン語に属する古フランク語と北ゲルマン語に属する古ノルド語起源の語彙は、主に古フランス語を通して各ロマンス語に拡散している。
・東ゲルマン語であるランゴバルド語起源の語彙は、イタリア語に強い影響を与え、他のロマンス語には余り拡散していない。
・イベリア半島のアラビア語、フランスの古フランク語、イタリアのランドバルド語のように、８世紀までにその地を支配していた言語の語彙が現代語まで残る。
・ゲルマン語起源の高頻度のロマンス語語彙は、ロマンス語起源のロマンス語と同様、ノルマン・コンクエストを期に古英語に流入している。
・色彩語に関する保守的な傾向を除くと、西ゲルマン語の古英語にあったゲルマン語の語彙よりも、ゲルマン語起源のロマンス語語彙が現代までよく残っている。

本稿では、ロマンス語におけるゲルマン語の影響について考察を行ったが、ロマンス語はゲルマン語以外にも、例えば、スペイン語・ポルトガル語・（イタリア語）におけるアラビア語・ケルト語、ルーマニア語におけるスラブ語、といった他言語族との言語接触がみられる。今後は、ロマンス語が影響を受けたこのような他言語族の語彙に関する考察を課題としていきたい。

付記　本稿は2016年８月７日、神戸市立六甲道勤労市民センターで開催された「欧州学フォーラム2016（創立10周年記念専門研究者会議）：ヨーロッパの言語と文化と社会」において、「ロマンス語語彙におけるゲルマン語の通時的影響」と題して口頭発表を行ったものに加筆・修正を施したものである。席上、貴重なご意見、ご助言を頂いた方々に深謝します。

註

1）島岡（1976:3）では、『もともと romanicus（ローマ風の）ということば自体が、当時ロマニアに侵攻したゲルマン人とロマニア人とを区別するものだった』とあり、この当時、ゲルマン人との多くの接触があったことを指摘している。

2）各言語の初出の文献は次の通りである。

ポルトガル語：（12C）

スペイン語：『サン・ミリャン注解』（Glosas Emilianenses）（９C ～10C）

フランス語：『ストラスブールの誓約』（les serments de Strasbourg）（842年）

イタリア語：『ヴェローナの謎歌』（indovinello veronese）（８C ～９C）

ルーマニア語：（16C）

3）西ロマンス語には、オック語（Occ.）・カタルーニャ語・ロマンシュ語・ガリシア語などがある。

4）さらに、サルデーニャ語を南ロマンス語と分類することもある。

5）東西ロマンス語を分類する特徴としては、名詞の複数形態の屈折型（東：ros***a*** → ros***e*** (I)/ roz***ă*** → roz***e*** (R)）・添加型（西：rose → ros***es*** (F)/ rosa → ros***as*** (S/P)）や、母音間の無声子音の保持（東：sa***p***one (I)/ să***p***un (R)）・有声化（西：sa***v***on (F)/ ja***b***ón (S)/ sa***b***ão (P)）などがある。

6）島岡（1976:11）によると、５世紀末のロマニア（ローマ帝国全般）の言語分布は、①ガロ・ロマンス語（フランス・プロヴァンス語）、②イタロ・ロマンス語（イタリア・サルデーニャ語）、③イスパノ・ロマンス語（スペイン・ポルトガル・カタロニア語）、④レト・ロマンス語、⑤バルカノ・ロマンス語（ルーマニア・ダルマチア語）であったとされ、②・⑤が東ロマンス語、①・③・④が西ロマンス語となる。

7）ランゴバルド語を話していた部族の主体は、ケルト人だと言われている。このことから推定すると、ランゴバルド語はゲルマン語とケルト語のピジンである可能性がある。

8）フランス語 roche は、古フランク語からの借用であるという説もある。

9）イタリア語の spola「ボビン」は、フランス語の espole という同根語を持つが、これはイタリア語からの借用である。

10）forra/sghembo/smaltire は、ランゴバルド語起源という説もある。

11）schietto は、ゴート語 slaiths からの借用であるが、古典ラテン語には sl- という連音がないため、イタリア語では schi- という音に変化した。

12）ポルトガル語にだけ借用されたものとして、luva「手袋」、スペイン語だけのものとして、cundir「広がる」などがある。

13）カタルーニャ語 amainar を通して借用。

14）古プロヴァンス語 brotar を通して借用。
15）ポルトガル語はスペイン語から借用。
16）スペイン語では、イベリア語の影響から [f] が無音の [h] として現れる。
17）「ポケット」を意味するフランス語は、同じ古フランク語 *pokka/*pukka を起源とする poche が現代語で使用されている。また、ポルトガル・スペイン語の tasca は「居酒屋」という意味であり、イタリア語とは異なる起源の語彙である。
18）greppia は、古フランク語起源という説もある。
19）*wangô (PG) > *wankja (Lan.) > guancia。このように、ゲルマン祖語の [w] は、イタリア語で [gw] という音に変化する。
20）ルーマニア語 vest は、ドイツ語からの借用の可能性がある。
21）現代フランス語 auberge は、ゴート語起源からの借用である。
22）Bortolini et. al（1971）での頻度順位を使用している。
23）Maurice Swadesh の語彙統計学の順位では、foresta（52位）、schiena（88位）、grattare（117位）、bianco（175位）となっている。
24）現代英語で使用されていないものも含んでいる。
25）troop は、古英語 þorp を起源とするが、troop 自体はフランス語からの借用語である。
26）abandon 自体は、古フランク語起源のフランス語からの借用である。
27）現代語のこの意味においては、イギリスの方言に残っている。
28）古ノルド語 bǫllr からの借用とする説もある。
29）古フランク語 *blāw/*blāo からの借用とする説もある。

参考文献

Bortolini, U., C. Tagliavini & A. Zampolli, 1971, Lessico di frequenza della lingua italiana contemporanea, Garzanti.

Campbell, Lyle, 2013, Historical Lingustics: An Introduction 3rd ed., Edinburgh University Press.

Chaurand, Jacques, 1969, Histoire de la langue française, Presses Universitaires de France.

Cortelazzo, Manlio & Paolo Zolli, 1979, Dizionario etimologico della lingua italiana, Zanichelli.

Lapesa, Rafael, 1981, Historia de la lengua española, Editorial Gredos.

Maiden, Martin, 1995, A Linguistic History of Italian, Longman.

Mea, Giuseppe, 1994, Dicionários Editora: Dicionário de italiano-português/português-italiano, Porto Editora.

Migliorini, Bruno, 1987, Storia della lingua italiana, Bompiani.

Patota, Giuseppe, 2002, Lineamenti di grammatica storica dell'italiano, Il Mulino.
Posner, Rebecca, 1970, The Romance Langugages: A linguistic Introduction, Peter Smith.
Posner, Rebecca, 1996, The Romance Languages, Cambridge University Press.
Valle, Valeria Della & Giuseppe Patota, 2006, L'italiano: Biografia di una lingua, Sperling & Kupfer.
Walter Henriette, 1994, L'aventure des langues en occident: Leur orignine, leur histoire, leur géographie, Editions Robert Laffont.
Wartburg, Walther von, 1944, Französisches etymologisches Wörterbuch, Basel.
島岡茂，1967,『ロマンス語の話』，大学書林.
小学館ロベール仏和大辞典編集委員会，1988,『小学館ロベール仏和大辞典』，小学館.
寺崎英樹，2011,『スペイン語史』，大学書林.
直野敦，1984,『ルーマニア語辞典』，大学書林.
山田秀男，2003,『フランス語史』，駿河台出版社.

＊資料

本稿で調査を行ったデータをゲルマン語起源ごとに資料として提示する。

・略号：ポルトガル語（P)、スペイン語（S)、フランス語（F)、イタリア語（I)、ルーマニア語（R)、ゴート語（Got.)、ランゴバルド語（Lan.)、古フランク語（O.Fra.)、古ノルド語（O.Nor.)、古フランス語（OF)、中期フランス語（MF)、古イタリア語（OI)、古英語（OE）

＜資料１：ゴート語起源＞

											意味
ą											大使の職
	rēdan				*arredāre						家具調度を備え付ける
											集団
											盗賊
											つまらない喧嘩
ą	bramjan, brammōn										吠える
ą											懸命に働く
											血統
											配備する
											装備
*hrapōną, *hrēpōną	*rapôn > derapar, derrabar(Occ.)										横滑りする
											鉄兜
*fangō											泥
											峡谷
											鉤傘
	gaheis > gai(O.Pro.), *gāhi(O.Fra.), *wāhi(O.Fra.)										陽気な
											優美・魅力
											斜視の
											バラストを積む
											泥
										ameninţa	～の素振りをする
											リボン
											糸巻き棒
											純粋な
											斜めの
											消化する
*spehōną											スパイ
*spōl											

＜資料２：古フランク語起源＞

											意味
*bannaną											見捨てる
											つなぐ
										báncă > F/I	保管所
				barō, barōnem	barō, barōnem						男性
*bastijaną											建てる
											ロバ
											必要・仕事
											アナグマ
*blēdaz, *blēdō	*blād										小麦
*blaitijaną	*blētjan										傷つける
*blēwaz	*blāo										青い
											ブロンド
*bundiją											縁なし帽
										botínă	長靴
											大きな村
*bautaną	*bōtan										投げ捨てる
											振り回す
*brekō											割れ目
											刺繍する
											ブラウン
*knībaz											ナイフ
*keusaną											選ぶ
											梟
											ヘアネット
				compāniō							仲間
											鎖かたびら
											ヒキガエル
											クレソン
										crúpă	尻
	*dansōn										踊る
											投げ槍
*skeraną											引き裂く
										eșarfă	マフラー
											甲板のハッチ
											ザリガニ
											ハヤブサ

*spehōną	*spehōn		*spiāre								動静を探る
*maganą											無力にさせる
											種馬
										stofā > l	布地
*faldistōlaz	*faldistōl										肘掛け椅子
											淡黄褐色
*filtizō, *feltaz											フェルト
											領地
											小瓶
											カスタードプリン
*flatą, *flatō, *flataz											お世辞を言う
											矢
											しおれさせる
											森林
*furbijaną											陰険な
*frumjaną											支給する
*fōdrą											飼料
											涼しい
*brēm- + *basją	*brāmbasja										ラズベリー
											率直な
											ズボン吊り
											担当
*hlaupaną											ギャロップで走る
											赤みがかった
											保証する
*wardōną											警備
											見張る
											番人
*warnijaną											備え付ける
											ケーキ
											甘やかす
*webaną											ゴーフル
											芝生
*glīdaną	*glīdan										滑る
											軍旗
*krappô, *krappą											房

*krappô, *krappą											アンカー
	*krattōn										ひっかく
											よじ登る
											ひょう
*grēwaz,*grisa											灰色
											スグリの実
ô, *wepsō-											スズメバチ
											ほとんど〜ない
*warjaną											直る
*werrō											戦争
											ゲートル
											ヤドリギ
*witaną	*wītan										案内する
*wīsô	*wīsa										方法
											斧
											垣根
*hatjaną											憎む
*hallō											市場
											小さな集落
											腰
											倉庫
											コガネムシ
											勇敢な
ô											ハープ
*χaisti											急ぐこと
											使者
											サギ
*χais-											ブナの木
*hrūtaną, *hreutaną	*hūrt										ぶつかる
*hauniþō											恥
											枕カバー・覆い
											セイヨウヒイラギ
											庭
											曲芸をする
											醜い
											雌猪
*likkōną											舐める
											回廊
*hlōþþijō	*lōtija										お玉

*lūkinjō											天窓
*makōną											石工
	*markōn										歩く
											元帥
*marzijaną											紛失する・悲しい
											テン
											マスト
											四十雀
											陰気な
											傲慢
											公園
*puk-, *pūka-											ポケット
*hrempaną	*rampōn, *hrampōn										這う
											ざらざらした
											狐
											せせら笑う
*rausą, *rauzą											葦
*raustijaną	*rōstjan										焼く
											汚い
*salą											部屋
*salhō, *salh□											柳
	*sōri, *saur										黄褐色
□										sǎpun	石鹸
*haitaną											望む
											落とし穴
*būkaz	*būk										つまずく
*strīkaną	*strīkan										編み物をする
											イボタノキ
*þurpą											あまりに
*trudōną, *trudaną, *tradjaną	*trottōn				*trottāre, *trotāre						早足で進む
*þurpą											部隊
											フォーク状の先端
											隊列
*sinþaną											思慮分別
											ポケット
*waiþō											長柄の鎌

<資料３：ランゴバルド語起源>

*skipą, *skeuhaz										小型ボート
										足が不自由な
										皿洗い
										惨敗
										亀裂を入れる
										斜堤
										かんぬき
										ふりかける
										伝令
										あばら屋
										ハンドル
*skinō										すね
										群れ
										疲れた
										磨く
*stukkiją										漆喰
										悪臭
										失敗
										浸す
	*zainjā									リックサック
										牙
										もじゃもじゃ髪
										ダニ

<資料４：古ノルド語起源>

＜資料５：複数語起源＞

広島大学大学院文学研究科論集　第76巻

The Diachronic Influence of Germanic Languages on Romance Vocabulary

The Lexicography of Old English and the Romance Languages Prior to the 10th Century

Takafumi UENO

The Roman Empire, which had ruled a broad region of Western Europe and part of Africa, divided